

仲間と一緒にでかけたい

全障研岐阜支部

寸田純子



私は、岐阜県のとある小さなまちに住んでいます。最近、映画「聲の形」で有名になったまちです。映画では、まちのあちこちが写真みたいに描写されていて、私が通った市民病院、母が会議に行く福祉会館、父と兄が通っている床屋さんがそのまま出てきます。

私がまちに行くには

このまちで、車いすユーザーの私が自宅からJRの駅まで行くには、バスに乗らなければなりません。バス停までは歩道もガードレールもあります。ちよっと油断すると田んぼに落ちそうになる道を、電動車いすで30分以上かけて行かなければなら



▲最寄りのバス停までの道のり

りません。必死に30分かけて行っても、バスは1時間に1本。それに、このバスに乗ろうと思ったら、何日も前に「ノンステップバス」を電話で予約しなければなりません。こんな思いをしてまで行く駅前ですが、駅前通りの店は、狭いし段差だらけで車いすでは入れません。だから結局、買い物も友だちと会うのも、車で行けるようなシヨッ

ピングモールになってしまいました。

唯一の移動手段は「親の車」

移動支援のヘルパーさんや福祉有償運送の車がなかなかつかまらない現状では、どこへ行くにも、「親の車」が唯一の移動手段になり、友だちと会うときも、毎回、「この日いい？」と、真っ先に親の予定を聞かなきゃいけないことになります。そして、親にシヨッピングモールのフードコートに連れて行ってもらい、ガールズトークがこれからつとときに、親が「しゃべれた？」と迎えに来て帰ります。だから、家の近くからもっと簡単にバスに乗れるようになるか、福祉有償運送の車や移動支援のヘルパーさんがもっと増えて、街中のお店の段差がなくなつて広くなれば、自分で自由に出かけられるのにな！と思います。バリアフリーが進むとともに、まちの人

たちがもっと私たちの存在に気づいてくれて手伝ってもらえるように、もっと外へ出て行きたい！とも思います。

この夏、いつも全障研全国大会と一緒に朗読劇団そらまめの仲間と、歩いて地元のコンビニまでランチを買いに行くチャレンジをしました。親は、後ろからずっと、「速いでー！」「落ちるてー！」「止まって！！」「右、右右右みぎー！」と応援？ 絶叫？ し続けていました。が、とりあえず、コンビニ弁当は「捕獲」できました。チャレンジ、第1ステージクリア！

(すんだ じゅんこ)



▲朗読劇団そらまめの仲間たちとコンビニチャレンジ！